

令和8年 2月3日

保護者の皆様へ

人間環境大学附属岡崎高等学校

校長 横山 博文

校長便り（花便り） 第14号

立春の候、保護者の皆様におかれましては、ご健勝のことと存じ上げます。また、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

「東風吹かば 勻ひおこせよ 梅の花 あるじなしとて 春な忘れそ」

本日は節分、そして明日は立春を迎えるこの季節、梅の開花の便りを聞くたびに、この歌を思い浮かべる方は多いのではないかでしょうか。菅原道真の境遇は横に置くとして、冬の寒さの中にあって、それでも春の訪れを確実に感じさせてくれる花と言えば、やはり梅の花だと思います。その梅の花への思いをこれほどまでに強烈に詠んだ句は他にないと思われ、詠み手の境遇と相まって、感極まります。地位や名誉、世俗的なものへの執着を梅の花に託すことで、人間としての泥臭さが一気に昇華され、全てが梅の香りによって清められる気がして、大学受験で必死に覚えた古文の文法、「な～そ」の使い方と共に、この季節に一度は心の中でつぶやく短歌です。

1月は行く、2月は逃げる 3月は去る という諺のごとく、私たち学校は、特にこの年度末の3ヶ月間の過ぎゆく時の速さは、他に例えようもないくらい、時間との過酷な戦いの季節です。3学期のスタートと共に高校受験である推薦入試、一般入試を実施し、在校生である3年生特進コースの生徒に高校生活の集大成である大学共通テストを受験させ、進学コースの生徒は卒業試験である学年末試験に臨ませる、それらが慌ただしく終わり、3年生は家庭学習期間に入りました。3年生が登校しなくなる朝の風景は、登校してくる生徒が単純に減るという物理的な要因と共に、私を含む玄関口で生徒を迎える教職員が生徒にかける「おはよう」の掛け声が減るということも相まって、想像以上に寂しさが増します。けれどもその分、登校してくる生徒一人一人の顔の表情が良く見えるのも、この季節ならではのことです。一人でも多くの生徒と挨拶をかわし、顔と名前を覚えたいと思います。

明日、明後日は暦通りに寒さが和らぎ、一瞬、春の温かさを感じられるようです。ここから三寒四温、温かさと寒さを交互に繰り返しながら、春が訪れます。自然界は今が華やかな春を迎える最後の我慢の時、私たち学校も生徒も、4月からの新年度、新生活に向けての準備の時です。この準備を如何に丁寧に慎重に行うかで、スタートの明暗が分かれる気がします。ご家庭におかれましても、是非この期間の大切さをご理解頂き、新年度に向けての準備を子供さんと共にさせていただきますよう、お願ひ申し上げます。